

慶応二年三月二十三日より慶応二年三月廿六日まで

P8310577 right

中の出勤無覚束、且病労にて、□ふ劇の職には難居可有し等云々申来る、藤山小君訪病として霜糖一筥、其外阪地産品を添へ使遣せし旨、柳亭稽古に來り、且十円金差
向恩借云々の義申置し旨、笛なる前へ届呉様、直し袂時計(*)(箱入相原(次郎)より頼聞る
廿四日未 雲漸晴

番町へ帰着後、初て行く夫より、出 殿(詰藩)昨頼まれし袂時計、竹田へ届け遣す、直に
直し代届け方

を尚頼越す、牛姑(牛込の姑)来る、伊藤(幸)來り小品持参酒飯を設く、土浦侯より鰻□一重贈
らる

廿五日申 晴

中西(龍)初て來り面す、乳児、増田(金)初て來り面す、難に、(御□方)寺沢(□)來り面す可□、
石原(伴)來り

P8310577 left

塩田(三郎)來り何れも面す、出 殿昨竹田より頼まれし時計直し代、相原へ渡す、細谷小君
鮓を持

來り、欧州土産品遣せし旨、山本(長)來りし旨、屋敷替相談頼□趣、正覚稽古に來る
明願須

崎村抱屋敷一見の義、約し遣す、佐久間(□)へ兼約の欧花種物類為持遣す
廿六日酉 晴雲

此約せし須崎村抱屋敷一見に行く正覚柳・斎場所案内に出、且柳亭紹介にて大川
橋向の佐竹下屋敷有名の庭一見す、夫より出 殿、開成所にて展觀場へ廻し候品物類
玄蕃頭殿□□殿、御見分有し旨、同所へ廻る、和田(重)より欧州着賀としてひらめ一尾贈り
越旨、伊藤(奥)坂地より帰着し賀に來り鱧ふし一袋贈りし旨、且近日來り面晤を乞趣
松盛亭稽古に來りし旨、広沢(悦)來りし旨

*「袂時計(たもとどけい)懐中時計

()内は細字双行(二行に小さい文字で二行書き)などの場合です。

□印は解読未了の文字です。私の実力ではすぐ解読できません。18.

【文字判読不可】、■は、文章の一部に汚れあり、虫食いにより文字が無い等です。